

下の文章は「たっちゃんの紙芝居ライブ」を呼んで下さった、子ども劇場おやこ劇場の皆さんからのアンケートにお答えしたものです。2016年2月に書きましたのでちょっと古い情報もありますが、今も想いは同じでございます。

【Q1 子どもの時の夢は？】

「新幹線の運転手」からはじまり、「おもちゃ屋さん」「天文学者」「雑誌の編集者」「ラジオDJ」「通訳」などなど、なりたいものはたくさんありました。でも全く根気がなかったので、ちょっとした壁にぶつかっただけで、すぐにあきらめることの繰り返しでした。

「夢は何？」と聞かれる事そのものが、若い頃は苦痛でたまりませんでした。

【Q2 今の仕事を目指すきっかけは何でしたか？】

これは話すと半日くらいかかるのですが、今日は10行くらいにしておきます。元々は児童演劇の劇団員だったのですが、もろもろの事情で退団しました。そして全く違う仕事をしていたのですが、やはり表現活動をしたい気持ちが募りに募り悶々としていた所、もう1度やれるチャンスが訪れました。しかし元の劇団にはそれなりの不義理をしてしまったので、戻ると言う選択肢はなく、まだ若くてイキがっていたこともあり、自分一人のできるパフォーマンスを考えました。

パントマイム・ジャグリング・弾き語り・マジックなどなど、いろいろ思いつきましたが、よく考えたら「これらすべて努力を要する」ことに気がつきました(笑)

そんな時、ふと『紙芝居』が思いつきました。

紙芝居なら役者の経験があるからすぐできるのではないか？それに裏にセリフが書いてあるから覚えなくても良いし！

な～んて不純な動機がきっかけでした。

そして実際はじめてみると、確かに誰でも簡単にできる(これは紙芝居の良い所)のですが、奥がめっちゃめっちゃ深い！

やればやるほど、可能性がいっぱい詰まった紙芝居の魅力に取りつかれ今に至っています。

紙芝居の師匠が、ある時こんなことをおっしゃいました。

「紙芝居は、とても優れたコミュニケーションツールだ。」

人前で何か楽しませろと言われても、恥ずかしくて何もできないけれど、この紙芝居を使えばこれを介して、初めて出会ったあなたと仲良くなれる。」

それ以来、僕にとって「紙芝居」は、なくてはならないかけがえのない相棒となりました。

【Q3 本番前に必ずすることはありますか？】

五郎丸並にルーティンがあります！

まずは、仕込みが終わった後のストレッチ。

効いているのか？いないのか？よくわかりませんが、やる内容と順番も決まっています。

そして「龍角散のど飴」をなめながら、半分着替えます。

開演15分前頃になったら必ずトイレに行き、戻ってきて着替えを完了させます。

そして最後は「ガム(クロレッツ・オリジナルミント味)」を噛んで、スッキリさわやかに本番を迎えます。

【Q4 失敗した思い出はありますか？】

毎回失敗しています。

僕の紙芝居は成否は、その時のお客さんの反応をどううまく返せるか？で決まります。

当たり前ですがお客さんは基本的に毎回違う人なので、その反応は毎回違うものになります。

元々僕はアドリブがとても苦手なので、毎回新しいお客さんの反応をうまく返せません。

それで終わってから落ち込み、反省します。

「次に今日みたいな反応が来たら、こう返すぞ〜！」と考え、意気込んで次の日に備えます。

そして次の日は、また新しい反応にアタフタして、終わってから落ち込みます。

この繰り返しです。

でも近年は、失敗してもあまり落ち込まなくなりました。

そもそも僕は、どんな状況であってもアタフタせず、スマートにうまくやりたいと思っていました。

でもそうはできない日々に落ち込んでいた時に、ふと気づいたのです。

「いいおっさんがアタフタしている姿こそが、子どもたちにとって最高に面白いのだ」と。

日頃エラそうにしている大人だって、結構簡単にアタフタする。

そこに安心感を抱き、笑顔が生まれるのではないか！？

ちょっと強引で言い訳がましい考えですが、これで僕自身がずいぶん楽になりました。

『失敗とは、この方法ではダメだという発見だ』

これはもちろん、どこかの偉い人の言葉ですが、まるで自分が発見したかのようにみんなに言いふらしてます。

【Q5 今日の見どころを教えてください！】

僕のアタフタ具合です。

あと、今回の「昔話の紙芝居」は愛知県の民話をもとにつくったオリジナル作品なのですが、これがいいお話なんです。

「ひと組」の麻創けい子さんが脚本を書いて下さり、仲間の照喜名隆充が絵を描きました。

僕からは想像しがたいと思いますが、泣ける感動作品です。

それから、「言葉遊びの紙芝居」や「わらべ歌の紙芝居」、「なぞなぞの紙芝居」の新しいバージョンもやりますので、

子どもたちの反応を楽しみにして下さい♪

【Q6 今後の夢は？】

Q1のような少年・青年時代を送り、このかけがえのない紙芝居と出会えてラッキーな中年になれました。

今後の目標は、「紙芝居を一生続けていく」こと。

夢は、「世界平和」です！

●お仕事を始めて一番嬉しかったこと、また、改めて気づいたことなどを教えてください。

一番嬉しかったことは、初めて小児科病棟で紙芝居をした時のことです。

「マーガレット一家の意気込み」という資料を添付しますので、これをご参照下さい。

改めて気づいた事は、いろいろありますが、一番強く確信したことは、

「子どもたちに心から安心して笑ってほしいならば、まずは僕たち大人が穏やかに機嫌よく楽しく居ること」です。

僕が紙芝居を始めた頃のある公演の途中、子どもたちがチラチラ後ろ振り返っていました。

もしかしたら僕の紙芝居がつまらなくて、集中力を切らして後ろを気にしてるのかな？と思ったのですが、あとで確認したら実はそうではなかったようです。

後ろを振り返っていた子どもたちは、後ろで見ている自分のお母さんやお父さん、おばあちゃんやおじいちゃんがどんな顔をしているのか確認をしていたのです。

そして親たちが機嫌よく笑っているのを確認したら、安心してまた前を向いていたのです。

僕たち大人は、子どもたちが元気で楽しく笑ってくれていることが嬉しいです。しかしそれと同じかそれ以上に、子どもたちは親や祖父母が楽しく笑ってくれていることが嬉しいのです。

だから子どもたちに未来への希望を持ってもらうための、簡単で唯一の方法は、僕たち大人が楽しく笑っていることだと思います。

●お仕事をする上で、一番大切にしていることは何ですか？

一生懸命やります！

その場にいる誰よりも、楽しそうな顔をしています♪

たとえお客さん誰一人クスッと笑いもしなくとも、僕はその時楽しい顔をしている自信があります。

実感なのですが、年を重ねるにつれて人生がどんどん楽しくなってきました。

「大人って楽しいぞ〜！」ということ子どもたちに見せつけて、「早く大人になりたいな」と思っています。

世界中の子どもたちが未来に希望を持ってくれば、きっと世界は平和になると信じています。

【以降、2023年6月追記】

もう1つ今は、「自分が好きになっちゃう種」を、紙芝居で蒔き散らかしたいと意気込んでおります。